

オピニオン & フォーラム

世界史の中の朝鮮戦争

耕論

中国経済発展遅れた一因



57年、中国・上海生まれ。専攻は中国現代史、アジア国際関係。著書に「毛沢東の朝鮮戦争」など。

朱 建栄さん

東洋学園大学教授

朝鮮戦争は、国際社会に「新生」中国の存在感を認識させた一方、経済発展が遅れる原因にもなりました。

開戦から4カ月たった1950年10月、中国は「義勇軍」を朝鮮半島に送り、苦境に陥った、金日成率いる北朝鮮軍を支援しました。1年前に本土での国民党との内戦に勝利し、まさに新国家建設に乗り出したときでした。

米軍主体の国連軍は、38度線を越え中朝国境に向かっていました。国境の背後の中国東北地方は石炭を産出し、重工業の拠点だっただけに、毛沢東は出兵したのです。

毛は、ソ連(現ロシア)が空軍を出すことを前提に参戦を決めました。スターリンに裏切られました。社会主義国共通の利益より、国益が優先されたのです。中国は米国の代理戦争の前面に立た

れ、ソ連への不信を強めました。後に武力衝突までした中ソ対立の背景的要因です。

中国は、最強の米軍を38度線に押し戻し、「眠れる獅子」のイメージを一掃し、軍事、外交大国の地位を獲得しました。ベトナム戦争で、米軍が北ベトナムに地上軍を侵攻させなかったのは、朝鮮での経験で中国との衝突を避けたからでした。

一方、中国国内では、朝鮮戦争を全力で戦うため、比較的緩やかな「新民主主義」路線を一変させ、スターリンモデルの政治体制を導入、毛の独裁に拍車がかかりました。しかし経済発展は大きく遅れました。米国の封じ込め政策は、ニクソン大統領が訪中した1970年代初めまで20年にわたりました。国内では戦時体制が続く、文化大革命など社会主義の原理を重んじ

た左派色が強まり、改革開放も遅れたのです。

戦争が休戦状態のまま、朝鮮半島は世界で唯一冷戦構造が残る不安定な地域です。ソ連、東欧が崩壊すると、孤立を深めた北朝鮮の存在は中国にも負担になりました。

中国は、北朝鮮の核、ミサイル開発が、周辺国の核保有や軍事衝突を誘発するとして強く反対しています。昨年、北朝鮮への米国の攻撃が取りざたされると、隣接する中国にとっても大変懸念される事態となりました。

「北朝鮮への対応」ということで韓国に米軍の高度迎撃ミサイルシステム(THAAD)が配備されると、中国は高性能ミサイルによって自らの軍事情報が筒抜けになると憂慮しました。韓国に経済的な圧迫を加えてまでして撤退を迫りました。

米朝首脳会談を契機に朝鮮半島の非核化が実現し、休戦協定が平和協定に変わること、中国は支持します。そうすればTHAADの配備も、米兵約2万8千人の韓国駐留の根拠もなくなります。中国は平和協定の先にそうした変化を見通しています。

(聞き手・桜井泉)